

2012年度の事業報告

はじめに

- ①. 公益法人移行認定申請について、岡山県と申請書内容の事前確認や各種提出資料を取り揃え、9月7日に移行認定申請書を提出しました。その後、岡山県公益認定等委員会に諮問、答申され、2013年4月1日「公益財団法人おかやま環境ネットワーク」に移行しました。
- ②. 各事業実施にあたっては、参加を増やし裾野を広げることを目指し、企画の見直しをすすめながら実施した結果、参加者は過去最多となり、他団体等との協働、連携もすすみました。
- ③. 事務局定時職員減員に伴い、各作業・業務の見直しをすすめ、効率化を図りました。

1. ネットワーク・広報・研究・助成事業

- ①. ネットワークのつどい（維持会員総会・助成報告会）
 - ・交流やネットワーク機能強化を目的に、維持会員総会、助成報告会、交流会の3点を併せ持つ交流事業として開催し、52名が参加されました。
 - ・助成団体報告：岡山県恩原高原ウスイロヒョウモンモドキ特別委員会・難波通孝氏、岡山淡水魚研究会・森千恵氏、真庭ハンザキ調査団・瀬島義之氏の3団体から、前年度助成活動の報告がありました。その他の団体は、交流会で概要を報告しました。
 - ・理事会報告：2011年度事業実績・決算、2012年度事業計画・予算、監査結果を事務局より報告しました。
 - ・交流会：会員間の交流や問題の共有化を目的に、自然環境・社会環境・啓発活動の3グループで情報や活動ノウハウを交流し、連携や支え合いを作る機会をつくりました。
 - ・公益財団法人移行後のネットワークのつどいのあり方について、運営委員会にて検討をすすめました。



●ネットワークのつどい・報告会

- ②. ホタル委員会・ホタルフォーラム
 - ・ホタル団体交流会を年3回開催（4月：19名参加、7月：21名参加、9月：22名参加）し、ホタルの保全活動をとおした自然環境保全活動の交流をすすめました。
 - ・第10回ホタルフォーラムを総社市立総社北小学校にて、地元「夢づくりクラブ」の協力のもと開催し、75名（22団体）が参加されました。冒頭、青山理事長からおかやまホタルフォーラム10年をふり返っての挨拶があり、その後、県内の取り組みとして、『フィゴ湿地を守ろう』総社市立総社北小学校6年生児童、『ホタル復活事業と環境整備について』武内立爾氏・津津のホタルを親しむ会、『矢掛高校での取組』室貴由輝氏・岡山県立矢掛高等学校教諭、『ホタル再生の年間活動』鶴崎治成氏・夢づくりクラブの報告がありました。会場内では活動紹介のパネルなどの写真展示がありました。



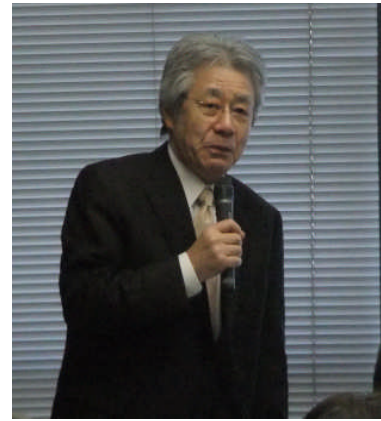
●第10回ホタルフォーラム



●第10回ホタルフォーラム

③. 第四回おかやま環境シンポジウム

- ・県内の様々な関係者とのネットワークをつくるため、団体、専門家、事業者、個人、行政関係者が集い、情報交換・交流を行う機会確保を目的に、自然環境部会の企画・運営のもと開催し、41名が参加されました。
- ・今回のテーマは『ごみが自然環境に与える影響』とし、従来の大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムや生活様式、さらにはこの根幹をなす「価値観」の早急な転換をめざし、自らの生活や活動において環境への負荷の低減に積極的に取り組むきっかけとなることをめざし開催しました。
- ・徳島大学名誉教授・中嶋信氏の基調講演『震災がれきは廃棄物政策の構造欠陥をあばく』の後、御津の「みどり」と「清流」を守る会事務局・河原慎司氏『近所に産廃がやってくる!』、(公財)水島地域環境再生財団・塩飽敏史氏『海のごみはどこから来る?~高梁川流域での調査から~』、山陽女子中学高等学校地歴部顧問・井上貴司氏『女子中学生高校生が取り組む瀬戸内海のお底ゴミ問題』、株式会社サンキョウ-エンビックス環境経営支援室エキスパート・仲井俊文氏『CO₂の見える化カーボンフットプリントから見る廃棄物』の取り組み報告の後、参加者との意見交換を行いました。



●第四回おかやま環境シンポジウム
中嶋信氏



●第四回おかやま環境シンポジウム
意見交換

④. ニュース、ホームページ、メールニュースの発行

- ・「おかやま環境ネットワークニュース」を年4回発行し、個人、団体、企業の交流につなげました。
- ・月2回のメールニュースの発行と、ホームページの更新を通じ、情報提供をすすめました。
- ・ホームページの累計アクセス数は170,000となりました(前年度末141,000、08年9月リニューアル時点:48,000件)。
- ・メールニュースの登録者数は積極的に各事業の参加者を中心に登録を呼び掛けた結果、昨年度末の654名から808名に増加し、各事業への参加申込は、メールニュースの返信によるものが多数を占めるようになりました。
- ・活動紹介パンフレットや維持会員総会資料をいろいろな機会に配布し、活動紹介や会員獲得を図りました。

⑤. 環境家計簿の普及

- ・2011年のモニター実績報告をまとめた「環境家計簿レポート」を7月に岡山市と協働で発行しました。報告は343世帯からあり(モニター数570)、その内2010年と2011年の2年間分の全データが揃ったのは138世帯、CO₂排出量は前年比5.8%削減、総量で46,774-CO₂kgの削減につながりました。

(株)おかやま環境ネットワークニュース No.69

発行:おかやま環境ネットワーク
〒700-0008 徳島市中央区1-7-7
TEL:087-824-2121 FAX:087-824-2122
E-mail:kankyonet@okayama.coop
http://www.okayama.coop/kankyonet/

2012.11

体験プログラム① 開催報告	体験プログラム② 開催報告	体験プログラム③ 開催報告
<p>【海太郎観察会】</p> <p>7月15日に金勢市大浜地区にて、吉原一様氏(関西高校)を講師に開催し、99名の参加がありました。当日は、現地へ自然観察やゴミの分別についての解説の後、各自が用意してきた「しめけ」による観察体験を行い、講師が採集したゴミスタを観察しながら、詳しい解説を聴きました。</p> <p>【参加者の感想】</p> <p>生まれて初めてゴミスタを観ました。とてもきれいでした。一緒に遊んでくれた子供が環境について興味を持ってくれたらいいなと思います。</p> <p>酒打ち期間にたくさん遊んでくれてくれていた11歳の子供を思い出しながら、自然観察の楽しさを思い出しています。</p> <p>【参加者の感想】</p> <p>季節ごとにゴミスタの観察や、そのおかげで環境が保たれているということがわかりました。貴重な体験ができました。</p>	<p>【高島干潟いきもの観察会】</p> <p>7月29日に徳島県徳島市高島干潟にて、斎藤道明氏(山陽理科大学)、吉原一様氏(関西高校)を講師に開催し、118名の参加がありました。</p> <p>当日は、干潟の役割や現地のいきものについての解説の後、4組に別々高島干潟へいきもの観察体験とおしなな「多様性」を感じるとともに、自然環境について考え、意見を話し合う「干潟の役割」や「水の大切さの大切さ」について考えました。</p> <p>【参加者の感想】</p> <p>実際に参加できて自然のすごさを改めて知ることができ、環境について今一度考えるきっかけになりました。</p>	<p>【みづち農園エコツアー】</p> <p>8月28日に山形県村山郡本荘市工藤見学と、はちみつ園で養蜂体験を行うエコツアーを実施し、46名の参加がありました。</p> <p>当日は、午前中本荘工場にて、太田先生や養蜂道の見学と、午後からはみづち農園に移動し、ミツバチの役割、自然との共生等のお話を聞き、園遊を付けて採蜜体験をしました。</p> <p>【参加者の感想】</p> <p>「食や飲やつくってくださった人に感謝の気持ちを持って」とお話を聞いても、やはり今日のようには本物を見るのが最も大切だと感じました。ミツバチが環境保護のお話はとても深く興味をもちました。次世代に何を残して行けるのか改めて考えなければいけません。</p> <p>【参加者の感想】</p> <p>自然との共生をこれからの生活の中で考え、行動していきたいと思っています。自然の恵みを感謝して生きていきたいです。</p> <p>個人では訪れにくい場所に来て行ってみたい。貴重な体験ができました。本島に詳しく話を聞け、質問にも熱心に答えて頂きたい一日が過ぎました。</p>

No.69の内容

1. 体験プログラム①(3)開催報告	P.1
2. 寄稿「シメケとゴミスタ観察会」報告	P.2
3. 環境家計簿報告「環境家計簿実践」	P.3
4. 協働事業報告「思いつき研究会」	P.4
5. 協働事業報告「ゴミスタ観察会」	P.5
6. 「第10回おかやま環境ネットワーク」ご案内	P.7
7. 本環境ネットワーク事務局報告	P.8

●ネットワークニュース No.69

- ・2013年のモニター登録数は、岡山市の太陽光補助事業との協働などにより、2012年度570世帯から今年度719世帯と大きく増加しました。
- ・くらしの見直しにつながる啓発ツールとして、11月初旬に「環境家計簿カレンダー2013」を岡山市と協働で発行し、会員とモニターに送付しました。
- ・政府がすすめる「グリーン家電、住宅エコポイント事業」から寄附がありました。

⑥. 助成事業

- ・2012年度は6団体に90万円助成しました。
- ・2013年度は8団体へ102万3千円助成します。
- ・2012年度から「協働事業」枠を新設し、他団体等との連携がすすみました。
- i) 里海づくり研究会議「シンポジウム 日生を里海に・アマモと牡蠣の海」⇒2013年度市民のための環境講座・前半4回の企画につながりました。
- ii) おかやまエコマインドネットワーク「食とエネルギーの地産地消を考える」⇒2012年度市民のための環境講座第4回の開催につながりました。
- iii) 千年の森づくりグループ「美咲の森完成記念のつどい」⇒2013年度も地元協力のもと継続開催します。

2. 啓発事業

①. 市民のための環境講座

- ・市民を対象に環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促すことを目的に、より多くの参加をめざしテーマを参加しやすいものに変更しました。8回シリーズで岡山市と共催、岡山県生涯学習大学指定のもと開催し、過去最多の226名が参加されました。また、啓発資料として「エコジカル・フットプリント学習パンフレット」を発行しました。
- ・講師とテーマ
 - 1) 岡山大学大学院教育学研究科准教授・加藤内蔵進氏「自然災害から学ぶ～気象～」
 - 2) 岡山大学社会連携本部本部長・青山勲氏「原子力発電と放射能問題」
 - 3) 岡山理科大学理学部教授・野上祐作氏「岡山県下の水環境の現状をインターネットで知る方法」
 - 4) 名古屋大学大学院環境学研究科准教授・高野雅夫氏「自然エネルギー技術の研究開発と地域社会への導入」
 - 5) 同志社大学経済学部教授・和田喜彦氏「エコジカル・フットプリントの考え方と応用事例」
 - 6) 吉備国際大学国際環境経営学部長・井勝久喜氏「環境問題を捉える視点」
 - 7) 岡山県立大学名誉教授・伊藤國彦氏「生物多様性の意味について」
 - 8) 元岡山大学准教授・白井浩子氏「エコジカル・フットプリントって～地球1個分の範囲で暮すことが不可欠」

●助成実績一覧

※金額：万円

年度	団体数	金額
99	5	65
00	7	100
01	13	110
02	13	137
03	16	150
04	11	102
05	15	147
06	15	129
07	12	120
08	15	150
09	11	94
10	10	93
11	12	100
12	6	90
13	8	102.3
合計	169	1,689.3



●市民のための環境講座 加藤内蔵進氏



●市民のための環境講座 野上祐作氏



●市民のための環境講座 井勝久喜氏

②. 体験プログラム

・次代を担う子どもの参加する取り組みを大切に考え、自然にふれ、親しみ、自然との共生、自然の大切さ、いのちのつながりなどを伝え、自然環境や普段のくらしを考えるきっかけをつくることを目的に開催しました。

・第1回：『ウミボタル夜間観察会』

自然にふれる体験を通じ、いきもののいのちの大切さ、自然環境のすばらしさを実感し、自然の役割や海の現状など、くらしと自然環境の関わりを理解し、普段のくらしのあり方を見直すことにつなげるきっかけをつくることを目的に、倉敷市大浜海岸にて開催しました。

定数40名に対し99名の申し込みがあり、定数を増員対応し90名が参加されました。関西高校教諭・吉鷹一郎氏を講師に、生活協同組合おかやまコープ、岡山県消費者団体連絡協議会、岡山県生活協同組合連合会と共催し、当日は、講師による現地の自然環境やいきものについての解説と、しかけによる採集体験や採集したウミボタルを観察し、詳しい解説を聴きました。



●第1回『ウミボタル夜間観察会』

・第2回：『高島干潟いきもの観察会』

実際に干潟の中に入り、そこに棲むいきものたちと触れ合うことで、五感を通して豊かな「多様性」を感じるとともに、自然環境について考え、姿を消しつつある「干潟の役割」や「水の中のいのちのつながり」について考えるきっかけをつくることを目的に、児島湾高島干潟にて開催しました。

定数40名に対し140名の申し込みがあり、定数を増員対応し118名が参加されました。岡山理科大学理学部准教授・齋藤達昭氏、関西高校教諭・吉鷹一郎氏を講師に、旭川源流大学実行委員会と共催し、当日は、講師による干潟の役割や現地のいきものについての解説と4班に別れ漁船で高島に渡り、いきもの採集体験と採集できたいきもの解説を聴きました。



●第2回『高島干潟いきもの観察会』



●第2回『高島干潟いきもの観察会』
チワラスボ

・第3回：『みつばち農園エコツアー』

山田養蜂場みつばち農園にて実際にミツバチの不思議な生態を観察し、ミツバチの役割、自然と共生する姿、命や自然の大切さを学ぶことを目的に、岡山県「環境学習エコツアー事業」として開催しました。

定数40名に対し100名の申し込みがあり、抽選し46名が参加されました。生活協同組合おかやまコープ岡山東エリアと共催し、当日は本社工場にて太陽光パネルや製造過程の見学と、みつばち農園にてミツバチの役割、自然との共生等のお話を聞き、面布を付けて採集体験をしました。



●第3回『みつばち農園エコツアー』

・第4回：『アマモ再生教室』

アマモの役割や自然環境について学び、海への関心を深め、海洋資源の保全につなげる第一歩として笠岡市神島・見崎公会堂にて開催し23名が参加されました。

生活協同組合おかやまコープ井笠エリアと共催し、当日は神島見崎里浜づくり代表・森中憲治氏より、アマモの解説と育苗キットの製作方法の説明を聞いた後、4班に分かれ1人各2セットを作り、最後に、浅野甘喜夫氏（日本カブトガニを守る会笠岡支部副支部長）から、アマモの役割などについて解説があり、質疑応答を行いました。



●第4回アマモ再生教室

・第5回：『アマモ種まき体験』

第4回と同じ目的で「アマモ種まき体験」を日生町漁協並びに周辺海域にて開催し45名が参加されました。

岡山県、日生町漁協、NPO法人里海づくり研究会議、生活協同組合おかやまコープと共催し、当日は6班に分かれ船に乗り、6月に種を取り10月に選別した「アマモの種」を船の上からまきました。その後、NPO法人里海づくり研究会議事務局長・田中丈裕氏から、アマモの役割、アマモ場の回復状況などについて解説があり、質疑応答を行いました。



●第5回アマモ種まき体験

・第6回：『アマモ苗定植体験』

第4回企画の続編として、神内小学校の生徒も参加し35名が参加されました。

当日は神島見崎里浜づくり代表・森中憲治次氏より、アマモの苗の定植方法の説明を聞いた後、海岸に移動し、10月に作成し自宅で育てたアマモ苗を海に定植しました。



●第6回アマモ苗定植体験

3. 他団体や行政などとの関係

①. 他団体等との関係

・第5回「水環境フォーラム in 岡山」を（社）日本水環境学会中国四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会と共催で『農業に伴う地下水汚染に対する新たな対応～クリーニング作物の活用～』をテーマに開催し、18名が参加されました。当日は、高知大学・藤原拓氏「農地に由来する地下水汚染の抑制～クリーニング作物の活用～」、岡山大学・永禮英明氏「クリーニング作物からの肥料成分の回収・再利用」、鳥取大学・赤尾聡史氏「クリーニング作物を資源に～糖化と発酵～」の3名から農業地域の地下水汚染抑制と資源回収を同時に実現する革新的なシステム開発に関する研究成果を講演いただいた後、総合討論にて意見交換をすすめました。



●第5回水環境フォーラム in 岡山
高知大学・藤原拓氏

- ・第6回「水環境フォーラム in 岡山」も第5回と同様に共催で『水域の生産性と水質管理』をテーマに開催し、25名が参加されました。当日は、山口大学・関根雅彦氏「榎野川河口域・干潟の自然再生」、岡山県水産課・鳥井正也氏「カキ殻を利用した海域環境修復の取組」、海洋建設株式会社・片山貴之氏「貝殻魚礁(JF シェルナース)による生物生息環境の改善技術」の3名から、瀬戸内海に棲息する生物にとって快適な水質とは如何なるものか、干潟の再生などの最新の取組を聞き、総合討論にて意見交換をすすめました。

- ・日本科学者会議第19回総合学術研究集会「市民団体との交流会」にて『環境問題に関する活動のネットワークづくり』をテーマにおかやま環境ネットワークの日常活動を紹介しました。

②. 行政などとの関係

- ・「岡山県協働による環境学習推進事業運営委員会」、「岡山E S D推進協議会運営委員会」、「岡山市環境保全審査会」へ参加し、役割を発揮しました。
- ・岡山県「環境学習エコツアー事業」に「体験プログラム第3回・みつばち農園エコツアー」が採択され開催しました。
- ・岡山市との共催、岡山県生涯学習大学指定のもと「市民のための環境講座」を開催しました。
- ・岡山市と協働で「環境家計簿レポート」「環境家計簿カレンダー」を発行しました。



●環境家計簿カレンダー2013



●環境家計簿レポート

③. 寄附・支援・共催等

- ・環境家計簿関連事業に、政府がすすめる「グリーン家電エコポイント事業」より2012年度18件・111,860円(累計275件・1,520,399円)、「住宅エコポイント事業」より31件・111,423円(累計85件・180,920円)のご寄附をいただきました。
- ・全日信販株式会社より32,343円、ご寄附いただきました。

4. 法人管理等

①. 公益財団法人移行認定申請

公益財団法人への移行に向け、岡山県と申請前の確認や各種提出資料を取り揃え、9月7日に移行認定申請書を提出しました。その後、岡山県公益認定等委員会に諮問、答申され、4月1日に「公益財団法人おかやま環境ネットワーク」に移行しました。

②. 財政

- ・経常収益計は、予算比110.2%、前年比87.4%となりました。基本財産運用益は、買い換えにより前年から20万円増加しましたが、受取寄附金は、エコポイント事業終了に伴い前年から67.5万円減少しました。
- ・経常費用計は、予算比81.0%、前年比64.3%となりました。予算を下回っているのは、事業実施に当たり運営の見直しや共催等をすすめた結果、事業費が見込みより減額できたことなどによるものです。また、前年を下回っているのは、定時職員の減員や、前年度は「助成活動報告集」を出版したことなどによるものです。
- ・年度予算は収支均衡としていましたが上記の結果、当期一般正味財産は、1,641,209円増額しました。